

米沢東高チーム最優秀

中高生が地域課題を解決するビジネスプランを考え、競う「やまがたイノベーション」プログラム2020の決勝大会が31日、山形市の山形メディアタワーで開かれた。最優秀賞には、ポイ捨て削減アプリ「なげっぺ」を考え出した米沢東高2年の二宮綾音さん(17)安部和花さん(16)大竹希美さん(16)が選ばれた。

「なげっぺ」はセンサー付きごみ箱と連動し、ポイ捨ての未然防止を狙う。ごみ箱マップやポイント還元機能があり、ごみを捨てるポイントがたまる。ポイントは米沢牛や米織など特産品と引き換え可能。クラウドファンディングで資金

ポイ捨て削減アプリ考案 「なげっぺ」が最優秀賞



最優秀賞に輝いた米沢東高2年の(左から)二宮綾音さん、大竹希美さん、安部和花さん＝山形市・山形メディアタワー

賞に輝いた。3人は「苦勞して考えたアイデアが評価され、うれしい。多くの人と関わり、みんなで協力できた」などと話した。ほかに、学生コーチングサービス提供、庄内の郷土料理定期便、県産サクランボによるコスメ用品開発といったプランがあった。

プログラムは県の若者創業応援プロジェクト事業の一環で、山形放送(同市)が委託を受け運営。95人が35チームに分かれ、8月から研修やワークショップに取り組みプランを考え、決勝大会は地区予選会を勝ち抜いた10チームが参加。玉手英利山形大学長ら5人が審査した。11月にもワークショップを開いてプランをさらに磨き、事業化を目指す。

社会性、事業性、必要性などが高く評価され、最高

調達するほか、広告でも事業費を賄うプランだ。

(菅原武史)